

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - - - -)

事業所番号	0670800655		
法人名	社会福祉法人 光風会		
事業所名	グループホーム はまゆう		
所在地	山形県酒田市宮野浦3丁目20-1		
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 27 日	開設年月日	平成 14年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」を掲げ、毎日をひとりひとりのペースに合わせて、ゆっくり過ごしていただけるように支援しています。テラス前の畑では野菜を植え、収穫したての新鮮な野菜を食べています。利用者の方々は、共に助け合い、支え合い、楽しみを共有しながら生活をされています。職員は人生の大先輩である利用者の方々から、日々いろいろな事を学び、共に喜び、楽しく過ごさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の高齢者介護施設と同一敷地にあり、開設して14年の1ユニット事業所である。こじんまりとして、利用者・家族・職員間のコミュニケーションがとれ、また、積極的に地域活動に参加したり、企画事業に地域の方を招いたり、多くのボランティアを受け入れたり、地域との交流が盛んに行われている。また、日本海、最上川、松林に隣接する自然豊かな地域に位置し、建物・敷地も広く、広い菜園では、ナス・キュウリ・トマト等やカキ・リンゴも栽培し、以前の生活を継続し易い環境に恵まれている。利用者は、食後も居間で過ごす人が多いなど、理念に掲げる「ゆったり、楽しく、笑いのある時」を過ごしている。職員は認知症ケアに精通し、自然体での支援を行い、また、家族・地域との連携も図られ、成熟したグループホームである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成27年9月28日	評価結果決定日	平成27年10月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ホーム内に当事業所の理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」と「地域に感謝、貢献できるホームを目指します」を掲げ職員が日々頭に入れ、意識して支援している。	職員も利用者も見れる居間に、設立当初からの理念を掲示し、管理者と職員が共通認識としている。「どうすればゆったりできるか・楽しく笑顔を引き出せるか」等、理念を具体化するための工夫について、一人ひとりの利用者に併せ、理念を意識しながら話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・当事業所が、自治会の会員となり、自治会の行事・コミセンでのげんき講座、文化祭、地区運動会、法人の夏祭りに参加したり、神社の清掃活動、地域のスーパーへの買い物等で交流に努めている。また、今年度は収穫祭を企画し地域の方々、子供たちと芋ほり、芋煮会を予定している。	事業所が自治会に加入し、自治会便りを頂くとともに「はまゆうだより」を配布している。地域のげんき講座には利用者が毎月参加し地域の人たちと交流しているほか、文化祭への出展、運動会・清掃活動などに参加している。更に夏祭りや「認知症サポーター養成講座」に地域から参加してもらったり、タレントのウド鈴木さんはじめ多くのボランティアの訪問もあり、広く、深く地域との交流が行われ、すっかり地域の一員となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域共生事業を実施している。イベントを開催したり、はまゆうだよりを配布したり、自治会の行事に参加し地域の方々にご理解ご協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、会議録を職員に回覧すると共に、意見等については、職員間で話し合いをしてサービスの向上に繋がるように努めている。	2か月に1回、市職員・自治会会長・民生委員・包括センター・利用者・家族と職員により開催され、スライド等で活動状況を報告した後、行事・感染症予防・防災などについて意見を交換している。その記録を皆で共有し、話し合い、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会議では酒田市介護保険課、地域包括支援センターの担当者や、自治会長、民生委員から出席してもらい情報交換や連絡等を行っている。また、酒田市介護相談員も受け入れて協力関係にも努めている。</p>	<p>運営推進会議に市職員の出席を得ているほか、毎月市の介護相談員の訪問がある。一方、市事業者連絡協議会に出席するとともに、災害対策等必要のつど市の担当者等と情報を交換して、協力関係を築いている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束についてのマニュアルがあり、内部研修を行っている。また、夜間のみ玄関に鍵を掛けているが、他は見守りを行い身体拘束のない支援をしている。</p>	<p>年1回は必ず職員全員で身体拘束マニュアル等を活用しての勉強会を行っている。また、その際、「虐待チェックリスト」を用いて、全員が自分の支援活動の確認をしている。身体拘束の具体的な行為やその弊害については、職員もよく理解しており、必要な案件が出た場合は、管理者及び全職員で意見を出し合い、身体拘束をしないで支援する方法などを検討している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・内部研修を行い、高齢者虐待サインチェックを活用したり、職員会議時にも話し合いをしたり、職員間で声を掛け合い、虐待を見過ごさないように努めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・資料を回覧し、また誰でも見られるようにしている。10月に芙蓉荘グループで成年後見制度についての研修を予定している。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入所時に契約書や重要事項説明書の説明を行い、不安や疑問点を確認しながら、納得、理解してもらっている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者には日常生活の中で、家族には訪問時や連絡があった際に話す機会をもち、要望や意見を聞き、反映させるようにしている。また、「はまゆうだより」を運営推進会議出席者や家族に配布し、宮野浦地区に回覧してもらうことで知ってもらう機会をつくり、玄関先には意見箱を設置している。	利用者からは、日々の暮らしの中で、会話やしぐさから意見要望を汲み取るようにしている。家族からは、面会時や運営推進会議・家族交流会(年4回)などの際に、話し易い雰囲気を作り、何でも言ってもらえるように努めている。外部の人からは、イベントや推進会議・介護相談員から伺っている。出された意見は全員で話し合いそれを運営に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員連絡ノートを活用したり、職員会議を開催し、意見、提案、改善などを話し合う場を設け反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・法人で人事考果を取り入れており、成績が給与に反映するシステムを取り入れている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内外の研修に参加している。また、個々にレポートを作成し、ケアについて確認や見直す機会を作り自己啓発を促している。	敷地内にある法人グループの年間研修計画を踏まえて、事業所の研修計画を作成し、毎月多様な研修を行っている。県社会福祉研修所やGH連絡協議会等様々な外部研修機会を活用し、全員が年1回は外部研修に参加するようにしている。また、研修復命書の作成の際に具体的に指導するとともに、会議で研修の報告をさせ、知識情報を全員で共有できるようにしている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・山形県グループホーム連絡協議会の会議や研修、実習に参加したり、酒田市介護サービス事業所連絡協議会への研修会に参加したりすることで交流を図っている。	庄内地区GH連絡協議会や酒田市介護サービス事業所連絡協議会の研修会や職員交換実習に参加させ、人的な交流ネットワークを広げながら、それを職員・事業所のサービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用前面接時に本人の生活状況やニーズを把握し、誠意をもって話しをし接することを心掛け不安が軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族に電話や自宅を訪問する機会をつくり、ニーズを把握し親身な姿勢をもつことを努め、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前の面接時のニーズを踏まえ、要望等があった際には対応できるサービスを検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理、裁縫、買い物、畑仕事等の作業と一緒にする機会をもち、話しをして教えてもらいながら、共感することを心掛け過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・電話や面会時の状況報告や情報交換、毎月の生活状況の報告を踏まえ、また本人にとってのより良い方向性を話し、行事には一緒に参加してもらい共に過ごす時間を作りながら、信頼関係を築いていくようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・電話をしたりして関係継続や、知人の面会も積極的に受け入れ過ごしやすい環境を整えたり、娘に手紙を書いたり馴染みの床屋さんから来てもらったり、生れ育った土地を尋ねたりと、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様と関わりながら、利用者様同士の代弁者となり、孤立しないように、職員が調整役となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・法人の老人福祉施設に入所した場合などは、本人の様子を見に行ったり、面会時には家族の話を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で、本人話しをよく聞き、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。また、本人の表情、言葉からの思いを感じとることに努めと共に、家族からの情報提供や意見等を参考し支援している。また、おいしいコーヒーが飲みたいとの希望に、喫茶店に外出したりしている。	日々の会話や表情・しぐさから、一人ひとりの思いや希望を汲み取り、センター方式をモデルに独自で作成した「暮らしの情報」シートに詳しく記載している。それに家族の意見や考えを加え、シート記載事項を全員で確認し合いながら最適な方法を検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用前に、本人、ケアマネージャー、家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの状況を観察し、個人ケースに記録と共に申し送りを行い、職員が情報を共有し本人の有する力を生活の場で継続していただけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・各担当で本人、家族から要望等を聞き、アセスメントを行い計画に入れている。また、状況に変化があった場合は、ミニ・カンファレンスを行い、見直しをしている。	3か月ごとに、日々の暮らしの記録を基に担当者が、課題項目については計画作成担当者がモニタリングを行い、それを全員で共有している。計画の見直しは、変更があればその都度、特に変化がなくても12カ月毎に作成している。計画作成に当たっては、目標達成計画に掲げた、家族も理解しやすい具体的な内容になるよう、全員で話し合いながら作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に日々の様子や実践したことを記入し、情報を共有している。また、気づきや変化があった場合はミニ・カンファレンスを行い、見直しをしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・神社の清掃、地域の文化祭へ作品出展、コミセンでのげんき講座に参加しながら、本人の心身の力を発揮できるように支援している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の希望の医療機関を受診や往診を定期的に行っている。受診時には、本人の健康面、生活面、バイタルを記入し医師に渡している。必要時には直接医療機関に連絡を取り、適切な対応を行うようにしている。	定期的に本人・家族の希望する医師を受診し、又は往診を受けている。受診に際しては、前回外部評価の目標達成計画を踏まえて改善した、日ごろの健康状況、バイタル等を記載した「受診時報告書」を医師に持参するとともに、診察結果をその書類に記載し、医師・事業所・家族の情報の共有化を図っている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日、体調記録を記入し法人の看護師に回覧している。また、体調に変化があった場合は、法人の看護師より診てもらい、適切な指示のもと、医療機関等に連絡、受診するような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入院した場合は定期的に状態確認に行き、また病院関係者と情報交換を行い、退院できるように努めている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・利用前に、事業所の方針を話し理解していただくと共に、重度化した場合など状況をみながら早めにかかりつけ医や看護師と共に話し合い、方向性を確認している。</p>	<p>利用開始時面談の際、重度化した場合や終末期の対応について、事業所として対応できること、できないことの説明を行い、確認している。変化があった場合はその都度、家族や医師・看護師と早めに協議して対応している。看取りについては、同一敷地の福祉施設等での対応を経験した職員もおり、本人・家族の希望に沿えるよう、医師・看護師・職員の理解の基に体制を図っていきたい意向である。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・緊急時の対処の仕方、心肺蘇生についての内部研修を行っている。職員全員、普通救命講習・上級救命講習を受講している。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・ホーム独自で火災2回地震津波想定避難訓練2回行っている。内1回は夜間に訓練を行っている。又、法人施設と一緒に地域合同の避難訓練を行っている。</p>	<p>事業所独自で火災想定2回、地震津波想定2回の訓練を、夜間想定も含め行っている。そのほか、敷地の施設と合同で、消防署や自治会の協力を得て、避難誘導訓練、消火器具等の使用訓練、炊き出しの訓練を実施している。水や食料の備蓄もしている。また、津波対応について、市や県に対応を相談している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日々の生活の中で誇りやプライバシーを損ねないように人格を尊重し一人ひとりに合わせた対応と、言葉使い、話し方や声のトーン等に気を付けている。	一人ひとりの人格を尊重することを徹底するため、振り返りや話し合いを行い、また、接遇の研修を実施している。特に排泄や入浴等のケアにおいては、適切な言葉使いで対応できる能力の育成に努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・意志や希望が言えるような声掛け、環境作り、促しや働きかけをしながら本人の納得いくように支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の流れはあるものの、各自のペースに合わせて無理なく希望に合わせて過ごしていただくようにしている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人にまかせているが、季節にあった服の着用や必要時には職員からそれとなく促し整えてもらったり、女性利用者様は、化粧を試みたり、入所前からしていた、パーマや髪を染めるなど、馴染みの美容院に出掛けている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食いたい物を聞いたり、一緒に買い物の行き食材を選んだり、ホームの畑から収穫した新鮮な野菜や調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けを一緒にしている。また、名古屋出身の方から名古屋飯を聞いて、郷土の味を楽しんでいる。	三食とも、職員でメニューを考えて、職員と利用者が買い出しを行い、その材料と菜園で栽培した野菜を材料にし、手作りで調理し一緒に食べている。菜園では、ナス・キウリ・トマト・ジャガイモ・サツマイモ・かぼちゃなどを栽培し、季節感を味わっている。皮むきや茶碗拭きなど準備も後片付けも利用者が関わっており、また、食べ残しも少なく、皆で食事を楽しんでいる。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の状態に合わせ、食事の量、形態(刻み)を提供している。利用者全員の食事摂取チェックを行い、水分も定期的に摂ってもらい、摂取するのが難しい方にはゼリー・トロメリンを提供し、水分量を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個々に合わせた口腔ケアをしている。出来るだけ本人にしてもらい、不十分なところは声掛け、援助している。また、週1回義歯洗浄剤で洗浄している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導を行い、排泄の自立に努めている。夜間も声掛け誘導を行い、失禁予防・減少に努めている。	一人ひとりの排泄チェック表を克明に記録し、それを基にパターンの把握とさりげない声掛け誘導を行っている。「一人で、トイレで、便座で」を掛け声に、失禁の減少を図っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェックを行い、排便の確認をしている。午前、午後の水分補給、毎食時のお茶の提供と水分を摂ってもらっている。また、排便の促しの為に、便座のウォシュレットを使用し肛門に刺激を与えてみたり、誘導時に腹部マッサージを試してみたり、下剤を服用している方には確実に服用してもらっている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・本人の気分や体調に合わせて入浴をしてもらうようにしている。また、浴室に手すりを設置し、滑り止めマット等を使用し、個々自己の能力で入浴できるようにしている。温泉が出る為、温泉をゆっくり堪能してしてもらっている。	一人ひとりの希望を聞きながら、週に2回以上、個浴での入浴の支援に努めている。温泉と普通水の選択が可能で、多くの利用者が入浴を楽しみにしている。介助の必要な利用者には二人介助で安全に入浴支援をしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入所前から使用していたベットや布団の使用の継続、またゆっくり休まれるように季節に合わせて布団の調節をしている。また、ホールにはソファや椅子、畳コーナーなど、好きな場所でゆっくりできるように調整している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人のパファイルに処方箋を入れ、常に確認できるようにしている。薬の管理は職員が行い、確認、服用まで確認し、変化があった際には、看護師、家族、医師等に報告している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の能力に合わせて、調理や掃除、畑仕事、裁縫などをしてもらっている。また、必ず礼を言うことで、張り合いができるように努めている。レクリエーションなどは個々に合わせたものを提供している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物で外出したり、地域行事に参加したり、紅葉ドライブで月光川ダムに忘年会で南部屋敷へ出掛け外食を楽しんでいる。利用者様の希望と一緒に喫茶店にコーヒーを飲みに出掛けたり、馴染みの美容院へ行ったり生れ育った地域へ外出したりしている。	一日おきの買い物、散歩、地域の文化祭や運動会等への参加に加え、花見や花火見学・紅葉狩り・初詣などで、四季折々に、家族交流会を含めると年15回程の外出機会が設定されている。また、機会を捉えて外食したり、誕生地や馴染みの美容院を訪ねたり、菜園の収穫、テラスでの日光浴など、日常的に多様な外気に触れる機会を創出している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームの金庫で預かっているが、本人の自己管理でお金をもっている利用者もおり、本人の物を購入する際には本人の財布から自分で出して購入することもできる。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があった際には、話しができる様に援助している。また、小包を送ってもらった際には、本人がお礼の電話や手紙を書いている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある作品（一緒に制作した物）や飾り、活動時の写真などを掲示し、季節感を感じ、掲示物を見ることにより思い出したり、考えたり、笑ったりと、過ごせるようにしている。	明るく、温度湿度が調節された居間には、テーブルとソファ、畳敷きの空間がゆったりと配置され、壁には利用者の作品や行事の写真が飾られている。目を外に向けると、広いテラスの向こうに広い野菜畑、柿などの果樹が陽光に輝いている。居間には多くの人が集い、談笑し、テレビを観て、ゆったりとした時間が流れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにはソファや椅子、畳コーナーなど、好きな場所でゆっくりできるよこと整えている。また、部屋の前にベンチがあり、独りで、数人の利用者同士で過ごせるようになっている		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋には、本人の使い慣れた家具やテーブル、椅子、道具、仏壇、写真等を置き、本人や家族の意向も取り入れた部屋作りをしている。また、1日3回の温度確認、冬期間は各部屋に加湿器を置き適切な温度管理をしている。	居室には、利用者がベッド、テーブル、椅子、衣装ケース、仏壇などを持ち込み、壁面や枕元には家族と写った写真や飾り物、暦が置かれている。慣れ親しんだ生活用具に囲まれ、また、温度湿度も管理された居室で、居心地良く過ごせるようになっている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内は、段差はなく、危険と思われる箇所があれば改善に努め、浴室内、トイレ、廊下に手すりを増やし、有する能力を継続し出来るように、できなかったことにも、色々な角度から促しできることを見つけ、自立した生活に繋がるように努めている。		